

保育科短大生の進路選択行動について (5)

——仕事継続意志, M-F特性, 自己, 保育者イメージについての進路別比較——

三木 知子

(頤栄短期大学)

保育職への志向性が強い, 保育科女子短大生の職業意識, 職業同一性の発達に関し, いかなるサポートが可能なのか. この問題を明確化するため, 入学時, 在学中, 卒業後にわたり, 職業意識, 職業同一性の形成, 確立過程, それに関わる要因について, 出来る限り縦断的, 多角的に分析しようと「保育科短大生の進路選択行動について」と題し, 縦断的に検討を加えて来た. 今回の発表もその1つである.

三木(1994)は, 短大卒業直前の学生生活満足度, 卒業後2年目時点の職業適性・満足度, 両時点の自己イメージと保育者イメージについて, 職種(幼稚園教諭職: 教諭群, 保育職: 保育群, 保育職以外: 他群)間の比較を行った. その結果, 職業適性・満足度においては群差があり, 教諭群の適性・満足度の認知は, 保育群, 他群より高く, 保育群は適性や職場の人間関係の面で, 他群は仕事への誇りややりがい等の面で低かった. 自己, 保育者イメージについても, まじめさ尺度, 活動性尺度などで群差が見られ, 教諭群が他2群より高い評価をしている部分が明らかになった. しかし, 卒業後の保育者イメージ, 各時点の両イメージの差については顕著な結果を得ることが出来なかった. これは, 後藤(1983)も指摘する, 両イメージの統合がゆっくり進むという考えと合致しないものであった. 以上の結果より, 職種間の違いの分析を通し, 職業意識, 職業同一性の形成, 確立過程を明かにしていくためには, 短大在学中の調査資料をさらに検討する必要があると考え, 今回, 取り上げた.

ゆえに, 目的は保育科短大生を対象にし, 卒業後の進路別に教諭群, 保育群, 他群に分け, 仕事継続意志, M-F (Masculinity-Femininity)特性, 3時点の自己イメージ, 保育者イメージについて, 群間比較を試みることである.

【方法】

1) 調査期日: 対象者が1年次の1991年6月(1期), 2年次の1992年7月(2期)と卒業直前の1993年2月に実施した. 2) 対象者: S短大保育科学生177名(女子) 3) 手続き: 仕事継続意志については, 2期と3期において調査した. 表1に期した質問項目を設け, 一番当てはまる項目を選択させた. M-F, 自

己イメージ, 保育者イメージについては, SD法により調査した. 62の形容詞対を用い, 鹿内et al (1982)を参考にし, M, F共, 各々, 自己イメージの8形容詞対を該当させ, 自己イメージ, 保育者イメージについては, 三木(1994)と同様の45の形容詞対を該当させた. 各項目の評定は7点法である. M-F得点は, 3期の測定値を用い, 自己, 保育者イメージについては1, 2, 3期の測定値を検討の対象とした. 4) 群: 卒業後の進路により, 幼稚園教諭就業者(教諭群) 保育所, 施設の保育職就業者(保育群), 保育職以外の者(他群)に分けた. 資料不備の者を除いたため, 各群の人数は57名, 89名, 16名となった.

【結果と考察】

仕事継続意志について, 各項目の回答率を群別に示したのが表1である. 各期, 有意な群差を示していると言えないが, 数値からみると, 教諭群の結婚ないしは子供ができたなら仕事を辞めるの項目で, 回答率が2期より3期で増加しており, 50%を超えている. この逆の現象が他群にみられる. また, ずっと仕事を続けるの項目では, 教諭職の回答率は低く, 他群で少し高い. この回答率は, 三木(1992)と比較すると, 全体では, 結婚ないしは子供ができたなら辞めるの項目の回答率が減り, 子供が大きくなってから再就職するの項目の回答率が増加しているものの, 若林et al (1983)の指摘のように, 専門職志向性が強い保育系の学生であっても仕事への継続意志が強いとは言えず, 特に, 教諭群にこの傾向が強いと言えよう.

M-F特性について, M, F平均評価点を群別に示したのが表2である. 平均得点について有意差検定をした結果, M特性では群差は見られなかったが, F特性において, 教諭群と保育群間で $p<.001$, 保育群と他群間で $P<.05$ で有意差がみられた. また, 保育群のM点とF点間に $P<.05$ で有意差があった. M-F関係を少し明確にするため, M得点軸とF得点軸を設け, 各群対象者を位置づけてみた. その結果, M, F得点共高い(対象者の平均値+2/1*SD以上)者が, 教諭群で6名(10.5%), 保育群で4名(4.5%), 他群は0名であった. M, F得点共低い(対象者平均値-2/1*SD以上)者が, 教諭群で2名, 保育群で9名, 他群は0名であ

った。M得点が高く、F得点が低い者は、教諭群で1名(1.8%)、保母群で4名(4.8%)、他群で3名(18.8%)であった。以上の結果から、保母群のF得点が高2群より低く、事例的に少ないのが問題だが、mf型(両得点共小)、教諭群はMF型(両得点共大)に傾く傾向にあると言えるのではなかろうか。M、F得点と適応度とは関連すると言われているが、三木(1994)でみられた職業適応・満足度の群差をM-F特性との関連で検討できるのではなかろうかと考える。

イメージについては、自己イメージと保育者イメージの評定値の差を4下位尺度について群別に示したのが表3である。下位尺度は、自己イメージの形容詞対の評定値を因子分析し、4因子を抽出し、因子別にまとめたものを用いた。1尺度はまじめさ、2尺度は活動性、3尺度は洗練さ、4尺度は力量性である。また、両イメージ間の相関係数を示したのが表4である。各時点の群間の比較をすると、1期では、2尺度の教諭群と他群間で、3期では、3尺度の教諭群と保母群間で有意差($p<.05$)があったのみだが、2期では他の時期と異なり、4尺度共、教諭群と保母群間に、4尺度の保母群と他群間に有意差($P<.05, P<.001$)がみられた。2期に於いては4尺度共、自己イメージと保育者イメージの差は、教諭群より保母群で大きくなっており、顕著である。3時点間の比較をすると、1尺度におい

ては、教諭群の1期と2期間にのみ、2尺度においては、教諭群の1期と3期、保母群の1期と2期、2期と3期、他群も1期と2期、2期と3期、4尺度においては、教諭群の1期と2期、1期と3期、保母群の1期と3期、2期と3期に有意差($P<.05, P<.001$)があった。3尺度については、全く差がなく、時期による変化がどの群にも見られなかった。これらの結果をみると、尺度、群間により現象が異なり、後期に行くに従い、両イメージの差が減少するのではなく、2期で増加する場合があるということが判る。特に、保母群の2、4尺度、活動性、力量性において顕著である。また、表4の相関係数からも、2期での変動が大きいことが判り、上記したように、群差も顕著である。職業同一性の形成、達成過程の視点から、後藤(1983)の指摘している職業イメージと自己イメージの統合の進展を自己、保育者イメージの差の変化、相関関係から検討すると、捉えるイメージの側面、個人の職業志向方向性、時期等が複雑に影響し、変動しつつ、徐々に発達していくものと推測される。ちなみに、2期は、2年生の保育所実習を経験した後である。実習経験が、イメージの評定に影響し、その影響度が職業志向方向性の違いにより異なり、群差として示されたと推測される。

表1 仕事継続意志の群別比較

	結婚で退職する 子供ができた退職する 数年働き退職(3期のみ)		子供が大きくなってから 再就職		ずっと仕事を続ける		どうするか考えていない	
	2期	3期	2期	3期	2期	3期	2期	3期
教諭群	22(38.6)	30(52.6)	27(47.4)	23(40.4)	0	1(1.8)	8(14.0)	3(5.3)
保母群	30(33.7)	32(36.0)	44(49.4)	40(44.9)	9(10.1)	10(11.2)	6(6.7)	7(7.9)
他群	5(31.3)	3(18.8)	7(43.8)	10(62.5)	3(18.8)	2(12.5)	0	1(6.3)

():%

表2 M、F得点の群別比較

	M得点	F得点
教諭群	4.3(0.78)	4.3(0.33)
保母群	4.2(0.79)	4.0(0.57)
他群	4.4(1.03)	4.3(0.53)

表3 自己イメージと保育者イメージの差の群別比較

		1期	2期	3期
1 尺度	教諭群	1.2(0.64)	1.0(0.67)	1.1(0.75)
	保母群	1.3(0.89)	1.4(0.72)	1.3(0.74)
	他群	1.3(0.84)	1.2(0.73)	1.3(0.80)
2 尺度	教諭群	1.0(0.76)	0.9(0.66)	0.8(0.55)
	保母群	0.9(0.70)	1.2(0.87)	0.9(0.70)
	他群	0.6(0.56)	1.0(0.54)	0.7(0.49)
3 尺度	教諭群	0.5(0.41)	0.5(0.42)	0.5(0.40)
	保母群	0.6(0.53)	0.7(0.62)	0.7(0.68)
	他群	0.7(0.72)	0.7(0.91)	0.7(0.66)
4 尺度	教諭群	1.3(0.82)	1.0(0.57)	1.0(0.60)
	保母群	1.4(0.92)	1.0(0.57)	1.2(0.81)
	他群	1.0(0.72)	0.9(0.62)	1.1(0.70)

() :SD

表4 自己イメージと保育者イメージとの相関係数

		1期	2期	3期
1 尺度	教諭群	.284**	.315*	.248
	保母群	.151	.349**	.285**
	他群	.406	.216	.271
2 尺度	教諭群	.348**	.297*	.536**
	保母群	.465**	.130	.298*
	他群	.583*	.001	.601*
3 尺度	教諭群	.395**	.167	.416**
	保母群	.148	-.003	.001
	他群	-.252	.050	.467
4 尺度	教諭群	.321*	.431**	.535**
	保母群	.194	.347**	.303**
	他群	.634**	.515*	.427

*: $p<.05$ **: $p<.01$